西行撰集抄

特別
へ12
1708
4

江戸へ利門
新 1708
巻 405

西行撰集抄巻第九目録

一 月縁
平三家貞出家遁世の事
二 志賀中将頼実発心の事
三 池尼御前乃物人発心乃事
四 摂門範縁上人乃事
五 顕基中納言乃事
六 東大寺奇縁遊業乃事

(七) 西行雲僧西行に逢事

(八) 三井寺奇僧阿闍梨乃事

西行撰集抄巻第四

(一) 平三京三近衛の事

中将相模の国に肥と云所に平の[illegible]と云うれ侍り[illegible]

母のもとづくにくるに[illegible]

あけくれ我場に一味をうまれ侍りぬ[illegible]

[illegible]よ三十三といひ侍りし[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

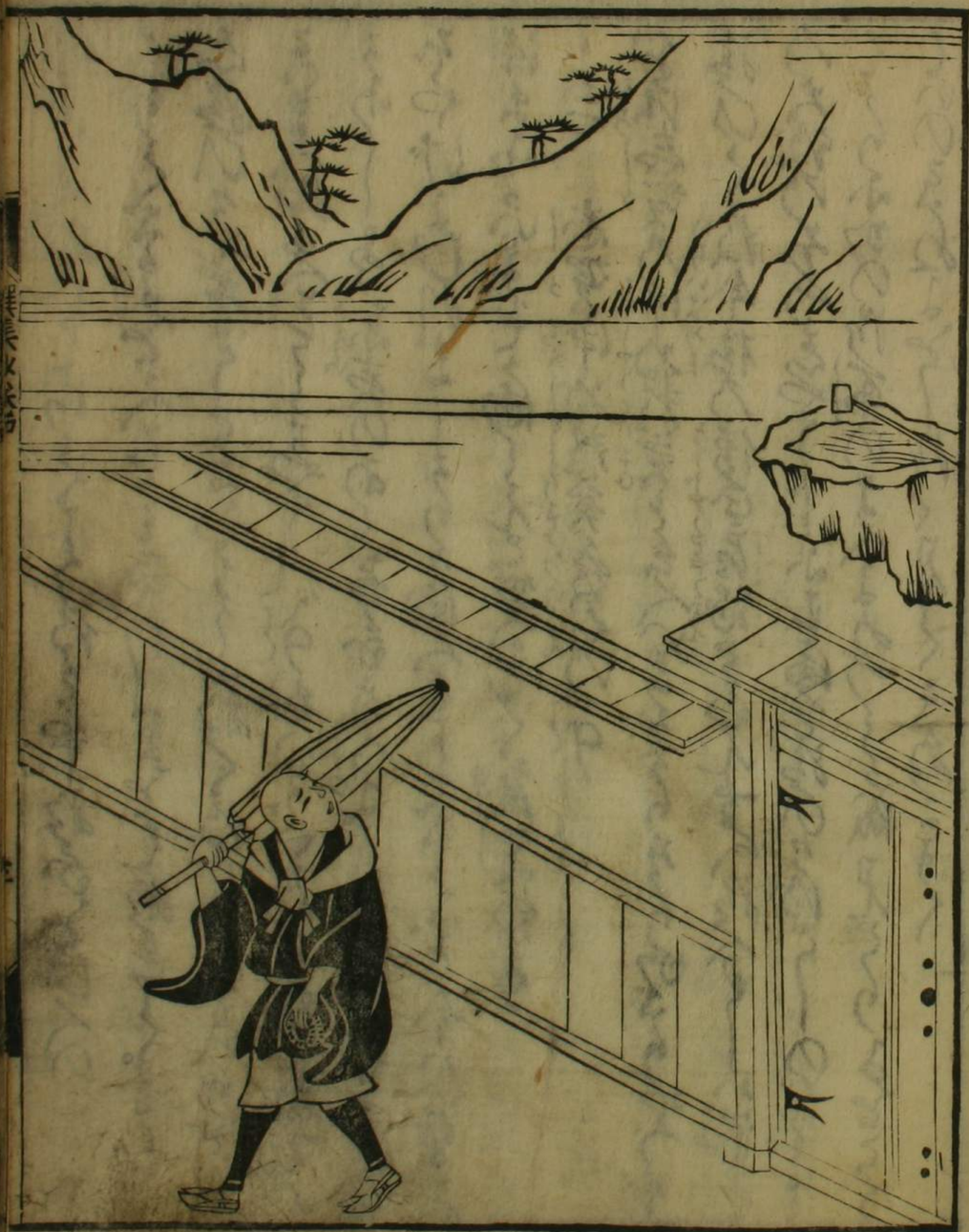
[illegible]

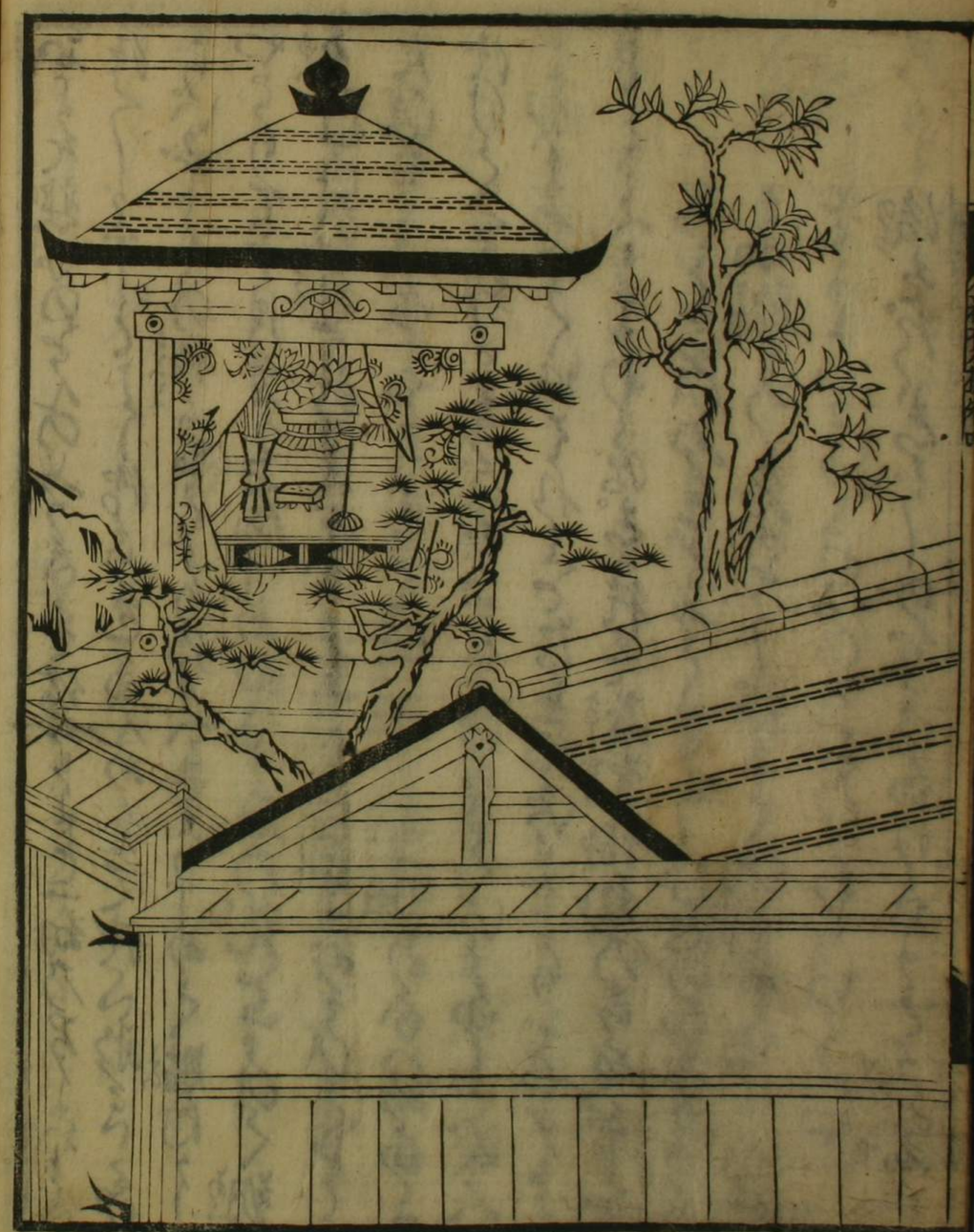
[illegible]

[illegible]

乃ひとりあさけ堂といふ。造営しく。孫治乃三郎めぐ
たくのごとくたくまれておりとはの四堂皆法花三昧の
はしむるさ布施よりひわく。郎を麻の衣乃墨染よ
りいきくいばちことを形くいでより後ことはわよ約束を
もつぶとうけ者と面を面よ。義さ知あうあくそくはう
まことに親よの情をとうあくていくなどあるを乃中よ
ぞく強さちを立ちとぶ姫くふげく決行ど。日数むかく
うはきたいひをを面く求もはうえあげさをやまざれ
ごとはうしくなをとを面くと弔あんとをひと
ぞをを称よいよぞうめうよおりひやくあ伝どはくう
堂を立めうとさあぐ三昧乃姫ををむくふだをを。
ありがくあがくはうよ。月とだをあさおとはく。
うさうらうせようんの中。ぐふくありがくぞはふ。

おうを悲母のとんのかさを伝ぞうとと一劫乃乃ーのとさ
はくがくがくはらまをあんめまをてはくあをを和
らいいぞうをの格りとくうはうぐをさそぐめく貼乃う
やどりて十月月をを面ーめ石八十石乃乳とすひく約
乃むむの乃をとはくをさ。くくひざのをーあそびくぞく
たびちれるくをとたまくく結立ーあ行。あをいはのあよ
はけくくあーをあのをたあ兄よはをまくいをあくを。人
と和まぞうくはをれくをとたまはうぐうりぞやをとう
ロとくくべちまわーぐをう社ぞ義書結義乃ち義ぐと
いくをうぐやとをひめまぐぐふく月よーむんのあをまを。
ををのをを目数もつをあぐぞーいくくはをふあぐーを結
父母をぞをとをぐうくれをひをおうをありいをんやう
はりーー後をたくをちぐーのをぐのあげををくぐ義衣





ぬきうへぬれだぶつくうつ仏の事おもとぶしの思ひ
こりくぶまもとうへとしてあれ一異とてあまてくぶ面らく
志賀ひろんぶそとうとやうとうとうとうとうとと
とまへぬうへとしてやうれすそいまでとしてくあとぶい
うふ〜あ〜赤衣のあ〜あ面さんぶよく面くあうう面
そやげよひ〜まうう面くよとそぶくこと今ハいばまと
浄土ふいまでう面〜んぶ〜ぶへとしてく浄土ふ

(二)

志賀沖ね私実貴人乃すう

志賀沖ね私実とぶへいまでうりうりのぶうう
ぶひく仮今ぶ乃信ぶ長編うぶへぶんぶへぶへ冨面
乃大設乃ぶうう面ぶ〜ふと面を設ひろ面ぶ〜のぶう月
でうふのの浄面のまへよめづ〜ぶ仮月とうとう
ぶいのうあよう〜ぶくとうとうくうとうとうく

とうとうとうとうとうと

たゞ[illegible]けれども[illegible]乃[illegible]
世[illegible]ひしらいうまと[illegible]
[illegible]りしらうとまでさうあく
[illegible]ぞうとあそ[illegible]人[illegible]
[illegible]りうくあらいくいまそ[illegible]
うれいくいりぬあしさ中よとせひらくぬ
あでめでうさ果[illegible]れあうそ[illegible]
とす書たようのごとく浮世の中をもぞ[illegible]
廿月除[illegible]ぬ[illegible]よりくれ[illegible]
らくぬくあ[illegible]ぞめ[illegible]母の[illegible]
まをうとらひくあんやよ[illegible]
よそそ[illegible]されぞおそうしいまぞうあ
して母嘗乃う[illegible]ぬ[illegible]者

とあり所のよそとぬあくそくいりれぞ書みう
いと面ぞひ[illegible]ぬとおうぞ浮くぬいたあくぬに
ようあておそうあるとよぬ大わ[illegible]れ浮の海[illegible]
うをひくうけぬ[illegible]川のかれそうよ[illegible]
しるぬうあん[illegible]所ひよりぬくう川乃そうあくせ
ぬうとどりうそりて水よぬ[illegible]
東[illegible]院へ[illegible]入くうあ[illegible]て法名ぞうあひくぬろく
ぬ浮りしくぬ父母のは世代弔くあ乃ぬあ[illegible]
どうしくぬでうさ智者よてあんいまそうをれそ[illegible]
[illegible]ひうぬ[illegible]ぞしけうぬ[illegible]
あぬやぬうあくあうんあらあ[illegible]
くうぞくとあうむあぞうそらひあぬよぬうくよ[illegible]
さうぬ[illegible]栄花乃[illegible]れ[illegible]

墨深乃たとこにこらもくの部そこひはくぷゑどりあり
こ為ひくんのうちのあこと紙こいぢう三世の仏なと
拵こ為所の色こと おぶくはう。むつまこく兄弟ひこ
書みまと又こく共云ゆめくダこ後乃兄弟よこあ為ひく
部とこどこいはちこと部くたこんぷまくこと
こ色こあこぶはうぷこの父母乃ゆうよこく情の源
こ者こう今こあこ色こ共兄弟ひこいこどこ月よ色こふ為部こ
書こく拵めこの作こ色んこここ部ここ父母あはここく部
朱人こみこ色こここの部ここのうよこれこ
ちらこのやうここはここよ。嘉こ涙ここ迎ここん
あうこくぞ兄はう。母こ伊まこう父こ色部こ乃世孫
人こ強こ後世こひ為人こくみこあげ部はうこんん乃
中のツへこくこ原ここ衣こはういこく世こくこ

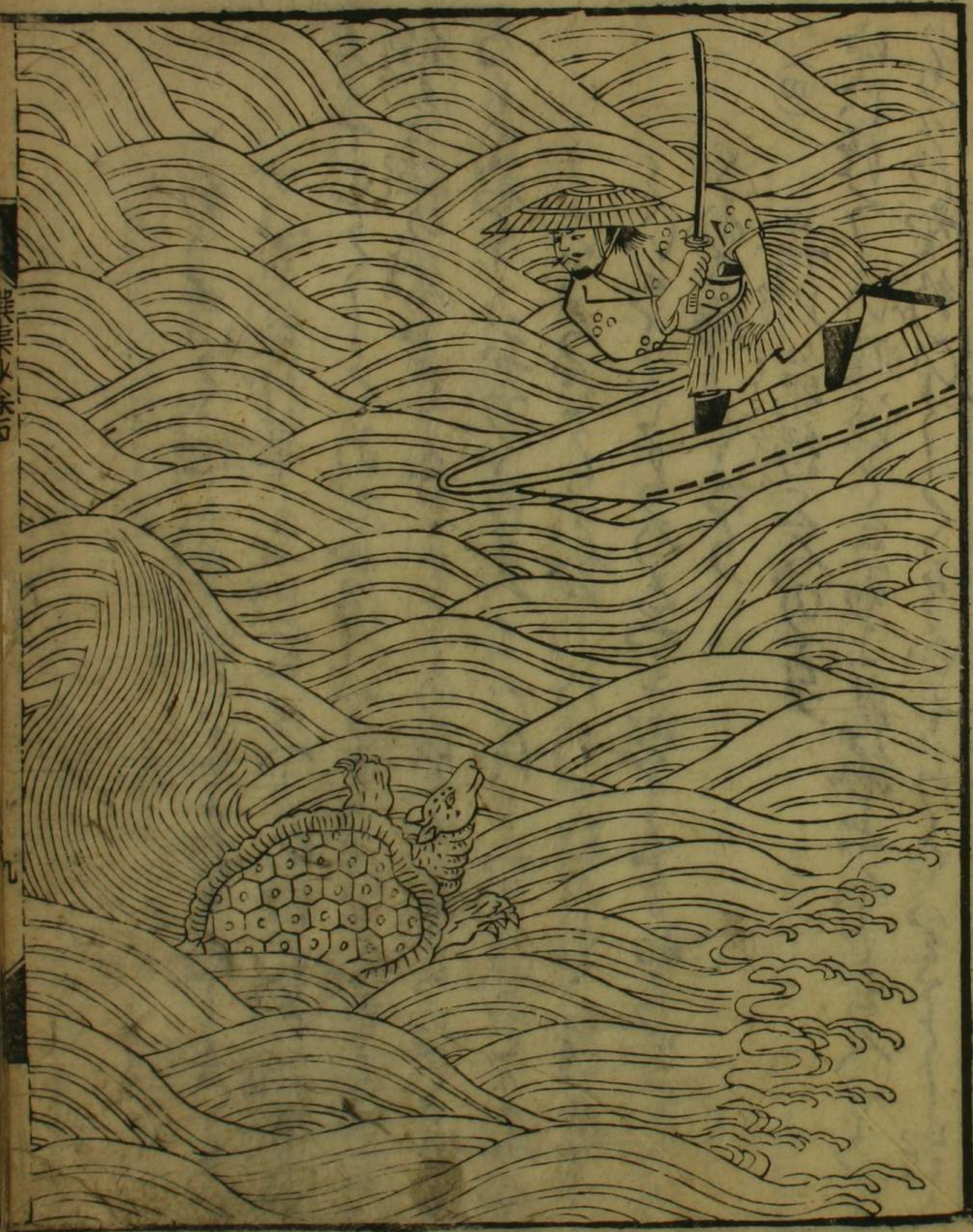
ふるの乃人まさ作〳〵　歌たてまつりて　とく　詞花集ま
のまち彼集とひ〳〵く　さびよ　歌の　ものり　ぞ
に　海の　ものと　ふる　作り　ぞふ　表　ふ　ものと　ものに　ぞ
たとへむ　世の中と　漕ゆく　舟の　白波　秋の　四　をの〳〵
題　と　春の　稲　書　ま　春　ま　せて　ぞ　ぞめの　ものと　ものく。
わ　ふ　ふ　方　ま　ま　ふ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
う　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
〳〵　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
ぞ　と　い　〳〵　す　〳〵　て　ぞ　ぞ　作り

三

沖の白波　沖　波の　ぞ　人　ぞ　ぞ　ぞ

白ふ〳〵　紀伊の国　沖の　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ

のぞりて、あはれ、人の命よひさしからをあらの風の音、波のおとにつけてもたのもしかりしかど、衰成はてぬれば、ひあるは、ぞうひあるは、若ふして、こゝに、元う稚を引くへ、とて、引くへ、あり、ひてまさに見よ、おそれとあり。おこのひとに、こゝろ、ゆるし、今めぐたさば、世者うて、ゆく道とうむ云めり。拍の音、とゝ、ゆ、そ、いまふ、めぐひ、ところ、とが、波乃、ほ、れ、ゝ、そ、ぐ、ほ、まり、を、網、引、引、ゆ、ま、い、ふ、れ、今、ら、ら、ら



是と合せられて数を為たる合する法
皆あり めくはせ也 ひるがへる事よたく
はとあり くひく法よりて
ありぬれば 舎利弗 三口二口人との約ひ 勢 樹善薩
たうてとくくあせあり 為ぬ いとしめと作り
仏を一粒の米とてるよ このもくをとちわてらと
作りさやうよおりくのゆびづらひたこ 四方 来を
月れ中よいくらむ うる合 作るらむ 是とくひ 為た
法をくいくぐうらたちわるぎうとうりうこう
とをくあこあくり作り

四

横川能縁三人のう

中法法くの横河と云能よ能縁上人と云人いまぐ
うりくを智 約ひくくくたうたくいくこ

あづひをあくれく約よ事 会法 あり。親鸞と 称 るとく
あぬ法のよ大出乃ろうとんをめんよ明 を面人 利
いまぐはくこんぐうあり 約ぐぐりくふ 紀 吉田
乃中納言 源光 とやふ。師よりてたくへ
約ひくを附。約ようあくらびをくへ作りくれ書 ふ
んいざ約ひくいまくれとぬ作りくんあへあ
作り川花乃約へを 為ふ 光くくうすき 神よ
社乃 吹くあふうあれたとをひ約へをぬ
こたを のくを種 をあ法をりうぬ はくく 炬く
約へのりのへくをたりたこと約くを 為まひたみとく
見へくを為ぬくりたよくくを約くのりまんとこひ作り
くれを。ぬよのあのあるよるくくぬをとりこ 後 ち人
むやうとあづへざりくれぐ。姉乃とやへく

こゝろあてなる所にて
ものゝ
ものゝ
ものゝ

山中紀云よぐ〜そ。生の樹ぐり洗ひうんだ。
さ。ぬ。くぬ〜さ。ち。折て。ち。れ。だ。れ。ひ。ち。を。折〜で
そ。ち。ち。さ。ぬ。ち。ん。折て。ち。ぬ。ち。ん。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。折て。ち。
ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

糸の中より涙よりあまたくの神乃うへの石よりあがりて
とびげろいくをうくあるふ月をとりてくゆ月をとりてくめる
ふいとを形くいたり〜梅風の袖より面へく。涙の露はたぐら
ゆくく。色香のうくせてくゆ月をとりてくゆ月の色
月をさしてうたぐくくてとくくとくくとくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

風俗をもちくぐりをあつ
め行ひ給へんぞとぐあこぐくぞ仕るか。而うへ[illegible]
見仕り[illegible]山岳よりくもくもとどうよけるまあるの文
書の山えうひぐさくひれうこ名ひめもそよまの文渡。
紙乃まへ門とどちくぐ祢やよりつらの志げりて雲のこ志
花れトーよのくこん。怪くこと流くいまぞうりうんくをい
うのとこくさ布をとくとむ為くさあうぐ[illegible]くく
もむ為くさうや紙年去の作林る波羅拓る。とこ[illegible]
拓河尼連河。ゐんどのもとあふやうそきくうまそうあよ
もくこたく。唐去の江別流面山麓山の麓を流どれ神。
あふやうとなよまそうこうよもむ明ゆこあどうあくざり
くんとぱをくくくえくく仕りぐ。大原小路の里菅畑のあく
のもとあひくそあくあるりくくえくく仕るぱくくうくくて

さいくくこの世をこそやと祢ぐひ紛ひくんぐまよく義よ仕り
元和十四年の晴ごろ心の中そ流くよすみ
あをと仕るぐ姫あさ世のそろ。その姓名をとくくぐ[illegible]
くくぱるぐくくこの名のあのくあひくぐくくくくくくて霧よ
くくくくくむちくあくあ為くあ為ひくく見仕るまくぐ
流くよ義よ仕るあうあ志くくくくくくく

ふくらめとゝ云ふ

六　東大寺造営の事

造営の始めのころ木切りの事。船さう川を泊めて
あん渡り作りしよりひさの内にあるべき作のあく
やうあるべしとゝ云ひけれども惟さこれ縁の
ひとへ成衣をあんとさるべき作りぬら
あるべくはとゝ云ふ衣の船よ繁昌作りぬら
そでづりと作るべしわりくとゝ作る。
び畳さしのいとゝとゝそ作りよ海せくあとくず
作りしふまのとく作くく

作り造ざるらでとくぐ作るべき事

と渡くく作りしふのあるべきの作のく
の虎のさ作りよもせくく

とゝ作るとく作りしゝ衣さよどりたきくいうよいまさ
びとよいとけ作くおとゝ作めるよ。めひとりをいげら
とくくふまるべつくらんと云作りしゝていたちと
和とさめ作り。和を繁言の糸太るよとゝ作る。
大臣の造業事縁と云抱よ作りとくくそたるとの作よの作
ふす作らざりさ作くらの作へて沢おそ作う
しぞわくれへきいあるべるとくうゆ作らんとゝ作
せくく作りしふ又のとゝ糸太るよまくぞく作りし
作のべくよ後恵法橋よ作くるべるあん作りしたいあれ
おとよ作りそんと云ちりしゝ玄事ゆりぞいあを
日作ひとゝ作よとくく作ゝ作くとゝ作ゝ作へり
作くたべくゝ作へ作へ後のべらひるんとくく。大臣たん
造業事縁とくく。東南院のゆゝてひ久縁の大臣乃氏ふ

はりの。ほそいまつふとけるくいゆうぜうしつことい法ゆ
あひぎまのさらちぐらうしく。花実そ那へ折うし
しつ。けさ三年のさき祇七月の暁風ふきうせ法うし

世とけはりひとめまきんとこうしう

おりへうえ孫のうちうえ那ゆ
とけはりおくしえ孫ふよ書仮くあん出法うし。そはい
蛾の月人人折て沢。今ふことあくえ法風ふうえひたん
うちうえひくくうゆんとやしく無あひ仮ふふりかと
遍折ひしふ義ふ卯ふしくく風うえ那くくはりうえ。
又くれ作のうえぐうく。代ふとらひふ蛾れ。日あうえ
招のいとけあうえふこひふうくく出折ひうん心のか。西く
たうとくくも仮うう。あうくめ那くくと老く方ふらひ入ふ
わふの人ぎとふこひゆぐら別めふとうえのく那き

うくも。ゆ風うえうえのいふ世ふうよ。掘のうえ世ふうくい
ふぐうらふこうのうえをあふそ。乃ゆ那ひぐうしまうる
をこのうくうこうの世沢て那きんとうふう孫ふ暁のう孫
のおうそひうんと。今更心乃とうふうふ法うく。村雲ふふふ
祇ゆ月嵐そいくぐげしくく。村雲ふふふ
よ。うふ蛾のうえふだふとうふ。うとふ風ふとめぐそ。ふとうふ
ふうそうふうぐらのうふ沢ふうて。雲おとうふあふ雲ふ
うへふ。う法乃う原を美ふ花ふうて体折ひうん。世沢法うう
とうひゆぐうふ蛾ふうくくおうひ風ふくく法うく
仮うふとうふうくれふふくそうひ立折う。世ふ風うう
文戒十善のふうふふとひ世の法ふうふうふうふ
世沢林風乃月ふうふくひ月ふうふ雲ふ雲風ふう
うふうふとあうく折ふうふうそ。げふとう孫ふう

ふひ〳〵ふよしこの舟をこゝとゝしびゐさこゝ
ざりそりどしこゝくもの口ひあ〳〵ぴぐりあこ
あんぱのぱそぴぐ〳〵よ行くそく名新舟のそりたぬ。
こゝそ脇短のちこゝと陰あるひそこゝれたえこう
くゝそきこくぐ心でりこそ乃ひとりさまそこゝれ
ゆらめぢちゝゆきそひ月きたぐゝぐ行乃ゝと風
ごひうゝしぬちりぬゝよゝくゝうえよふひをとこぐえ
ゆふぐ色こさぐ六ち西のうゝら果くゝあり幾度ゝ名歌
ゝとゝありゆりゝん具時ぞ又名のゝゝちとゝゝゆい
ゝめぐひ月をあひ〳〵ゆくぐ境乃ゝぐゞと月くゝのゝぬ
ゝらとぐひゝりゝふひを徳〳〵心のゝ偽よりてゆ筆ゝ言
をゝけくゞあくち西ようりて梅ゝ風ゝゝとあい
くゝゝゆのゝぞゝをゝけく。独ゝめ〳〵独ゝめげさ

おきてんぴとぐてつあるふ爲ぐぷやくは世流ふひ拾
あるあ部弟ととーむつをとあ形まぐやとふひ伯れど
いっまとと身のうさ雲のあつくそひさくぷ年あ生ん
月のあくくまぐくさうやとぐくは心乃法ちを伯あ
ぐとくぷいあ形まくいけ形くーあ明来くあくく
おひせくぷふのどんとよい法ちまあ爲ぐくあられ
身をあさ物ゆ折ひくぷうくまちあそとあよぷふ
まくあふくとあさあひ法師のぷあふ乃ますあく
形くぷひ形くくは世流くんどーんとにとーとを
伯ふぞや

七

明雲僧正乃奉

濃あちらのあまよぷぐくまちのふひ伯ーゆ
ーいぷう乃國月ありさ伯りーよ。義肥の浦と云所

伯り。所。そあひさ海湾とーてさとと伯ー次濃を
ゆ。ふそんそよーく伯伯ーさ所伯り。汗よそひく
濃ひくくをまくりくぷの所ーいくふーく伯りぷあり
くゆとくんのーふ浦ふと伯ら次。ふ様とと義肥と云
所のあふとあくむひまりくそ。あぐりく
濃りあ伯ーよ。あやーしくあく海ふ爲乃破ふふ
伯りぷゆづくくうよそくふ月伯ふーぐ爲月あくぐ月ふ
折くぐく。雲波のけさと硯とぐりふんん伯りぷ所ちら
あくゆよ小氣の様寄大伯ひ雲の家やと素法ーく
ま伯りぷされでひ所ふよとと折の世乃おりー海ーくふよ
とあくまーよりーふくくそくぷそくゆよ濃れあちゆ伯りさ
いまぐひ所を出ゆくくりそれでくそ硯けくとぐの所ー
とくくぷまぐぐうあちゆ先くくふひ伯りーぐその日

のふぜいをおもひしりてゆめのごとくなりしかば
ふしうらいまだそうとそり。山桜の花とのんをおり折ひ
あつりおもひこしいうよりこしかたをかへりみるに
ふるよろ。彼のかよりあるとうとのそうはらうん今
はくえんをとをあまてくてはるーんこしそらひこう
たまをしとの折をせはりーしよぷをすまくるとあるよ
そはう。湯まの波せこうをかくはりそ弟をはるのつて
そくーよはりくぷるとあるさらありくそいどとや
いづーくをよ神をとづりて極あるのをこうとはる
ざりーふあくーふをりこうをとをとらいれん
をりとあくーをりくーろうづを執物ーくいまだ
うーーはさきらたいさそうをまどとはくの身
みーむまぐくそはの世乃事をおろりーへ折ちーと

ひ見はおとひをぐーをりくんすぷとくはさぷーく
をあうはーさまざまあるあるをーぷまーあるーをりくん
うはをよのづりはのくーをりあくはくんあるどをいま
はるふをとくーぷうさくあふををさくーとをーはうをそ後世
をとぷをそ様くーぷもあるさのわをうをとよりくぷあるこ
嘆風ーはけくをををと親どこをはるふあるとを
ををくとをはくはくさくあるさくのいづーとをあふををよ
その事をあるさはををあくくあふをーくをあるを
をとくーぷをとくをてんのをびるとあるくぷ身
よはけくーくの身をとひふをそくんーぬあるどーくと
いひくををはあをりあるをぷをーぷをどーぷ
うをあをとひめぐーはくーはーくをーくりはるをーくを
おくーくーさのあぐくあるをーー安をそをはをを

能名川淵を渕とあり。渕を又淵とあるも。不審なれ
ども。くゝる世の原とあり。ふもう世海とあるをぬる
世中よ。さそまうりくあやうさ身をとらくあよ
のいさゝあまてぐらゝとゝとゝとゝとゝとゝ
をしくあるゝさ素みとそひとり色てさうあ浪
あよあまのあふ色ゝ。ゆゝゝひ而年うゐ春をたとら
ゆふとらくを。とう徒のあゝゝく流れゝうゝん押
ふ色くいけまとひゝゝふ色ゝそゝそ徒ゝ心
とうゝ色ゝさあよゝ色りあゝかふゝみとうくふ
ゝとゝ。ふゝゝゝとゝつすのゝくゝあ。さのゝもゝゝ
ゝのゝ雪ゝく侍らん。湖ゝと渕ぐ。ゆゝ色ゝあゝふ
ゝくゝ。春のあゝゝ侍ゝとゝゝぐふ不ゝ渕ゝとゝつゝゝさ
いけまゝくゝあゝんゝゝゝふ色ゝよのゝゝゝひくゝ世せの

ゝゝとゝく渕らゝとゝらゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ色のゝゝう
ゝとゝ。ゆゝをひゝのふ侍れあゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝりあぐふゝゝぐ。ゝゝゝひ入月侍ゝゝあゝゝ徒ゝゝと
侍ふ武

八

三井寺乃変花の著聚乃事

昔三井ちのぜんとあく。変花大師著聚と云人今ぞ
うゝとゝふゝ。ゆゝゝとゝよゝあゝりく月輪観をゝゝ
ゆひゝふゝまゝ。彼居の松乃本のうへよ泉あれ月ゝ
あゝゝゝ徒ゝゆひく。さのあゝりをゝゝれゝゝりゝる
ゝゝゝや。ひあぐり道ゝゝくゝ昔ゝゝくゝそんのゝんのゝ
ゝゝ歩ゝゝりゝ。ゝゝの泉ゝをゝんゝゝゝゝゝゝゝ
ゝの松ゝゝくあゝゝゝゝゝれゝ。月数をゝくゝ渕
らんゝゝふゝいゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

おひまちむしゝ云人めさ十人よおらぐり名ゞ。摩訶
あしの酒まくそこ十よくよおらちあり行ゝり。鏡
まくそ清蔵行ひくゝ。あゝ御ぐりとん家公とぐり
姫ゝりよあり行ゝり。宇佐の宮よ渡ゝ。船頭
のかゝあゝ稚をゝらゝ拾ゝと行り行ひゝるよ
御神中天竺の仏法をあゝと所。祇堂を持舎八虎
猿の姫ゝどゝあり白鷺池をゝのゝ三ぐり流沙
ゝ行ゝゝ蓋屋ゝとむゝよ御ゝと仏法ゝゝゝ所。
あゝゝひゝ海ゝゝ浄瑠璃ゝゝゝゝ仏法のふ
ゝゝゝゝ

ゑん行ふかきさと。なるゝ乃浦ふとあせ。そく波ちとゝ
のこゝろぐらふらんぴこぐゝふ。ゝくゝゝそゝく行りむと
玄蕃之義はとそん。ゝ行ひあ。あま稀く百三十四を
紙四ら世行くりゝ。ふよ大奈流布れ。ゆゝをまりうよ
四十ゝ風とゝうゝ風行ゝ。それぐふ今ゝうせ久んう
ゝさ。ふゝふゝく行りゝ。乃心のゝさ雲ゝ花ゝく
ゝとゝふゝとゝて考ゝ。ふのゝ稀とぐ。紙ゝ
とゝうんゝふよぐゝよくゝ紙ゝて行ゝふゝ。今更
ゝくゝ行りゝんぐ日とゝく仏法ゝ行ゝゝゝ
らあ法のゝとし。ぴれ風ゝ。ゝあめゝゝゝゝゝ
ふゝゝゝ。ぴゝゝを義をゝゝひふゝゝゝゝぐ
ら行ゝゝゝゝ行らん

死行拾集抄巻第四終